

肺がんの手術について

今回は当院で肺がんの手術をお受けになる場合の入院前から退院までの流れを簡単にご説明させていただきます。

肺がんもしくはその疑いがあるそれぞれの患者さんに最良の治療を提供できるよう呼吸器内科（肺がんの診断、抗がん剤・免疫療法・分子標的薬治療を担当）、放射線科（最新機種による高精度放射線治療や肺がんの画像的診断など）、病理診断科（各患者さんに最適なオーダーメイド医療のために必要な肺がん組織の分類や遺伝子異常について検査）、薬剤師（適切な薬の種類や投与量、副作用を専門的に評価）、そして呼吸器外科（手術担当）で定期的にカンファレンスを開催しております。本邦では肺がんと診断された患者さんの約半数が手術療法の適応となっており、当院でもほぼ同様です。

手術をお受けになる前に、4つのことをお願いしています。①タバコを吸われている場合、最低でも2週間、できれば4週間の禁煙 ②専門療法士による呼吸リハビリテーション ③歯科医師・衛生士による歯周病などのチェック・口腔ケア ④専門栄養士による栄養指導です。これらを行うことで肺炎などの重篤な合併症を軽減し、術後の早期回復をもたらすことできるからです。

手術の必要性・術式やそれぞれの患者さんのリスク・周術期に起こりうる合併症などについては術前に呼吸器外科外来にて詳しく説明いたします。ご不明な点があれば何なりと質問してください。

通常は手術前日に入院して頂きます。麻酔科医の診察や病棟・ICU・手術室看護師が訪問し様々な不安を解消します。手術は胸腔鏡と呼ばれる高精細ハイビジョンシステムを用い、最大3-4cm程度の創と2、3カ所の1cm程の創から手術を行います。腫瘍が大きい場合や周辺の臓器を合併切除する場合などは安全性・根治性を高めるために従来通りの開胸手術を行います。術当日は集中治療室で専門的ケアを行います。2日目以降は一般病棟に戻り早期離床を進め、看護師・リハビリスタッフにより肺炎や血栓症などの重篤な合併症の予防に努めます。通常は術後7~10日程度で退院となります。

退院後は定期的に外来を通院して頂き、術後の回復具合や再発の有無などをチェックいたします。進行度により一定期間術後補助化学療法（抗がん剤など）を行うこともあります。

桐生・みどり地域の肺がん診療をより充実させるためスタッフ一同、日々精進しております。これからも是非よろしく願いいたします。



【呼吸器外科診療部長 田嶋 公平】

